



てんえいしょう だより

「てらす笑顔がひろがる みんなが主役

笑顔をたいせつに いつでもやさしい天栄小学校

鈴鹿市立天栄小学校
発行 校長 松岡 宏樹
令和8年9月17日
No.17



全国学力・学習状況調査の結果について

カラー版はホームページで

令和8年4月23日（木）に、小学校6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果が7月末に文部科学省から公表されています。この調査は、児童の学力や学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てていくことを目的としています。一方、調査により測定できるのは、学力の一部となりますので、このことを十分に考慮したうえで、学校と家庭と地域が連携し、学校での教育活動をより充実させていきたいと思っております。

【成果と課題】

- 平均正答率は、国語・算数ともに全国値を上回りました
- 勉強が苦手な児童の層の割合は、国語・算数ともに全国値を下回っています。
- ▲家庭学習（平日1時間以上）については、全国との差が5ポイント以上下回っています。特に休日の家庭学習に取り組む割合が全国と大きな差（-14.1）があり、休日に家庭学習をしていない実態がわかりました。
- ▲「今、求められる力」のすべての項目が全国値よりも下回っています。その中でも「深い学び」「協働的な学び」の項目が本校では特に課題として捉えています。
- ▲非認知能力についても、否定的な回答の割合が全国を上回っており、課題に挙げられます。

【課題改善に向けた具体的な取組】

学力（平均正答率）は、全国平均よりも上回ったが、学びに向かう姿勢や非認知能力、また、家庭学習の習慣は、全国値を下回っています。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して、基礎学力の定着を図るとともに、ICTを活用した自己調整学習の確立とウェルビーイング（非認知能力）の向上を目指したいと考えています。

・深い学びの実現を目指した「学習者主体」の授業改善

端末を活用（情報共有・共同編集等）することで思考を見える化したり再構築したりする等、探究的な授業につなげることを意識します。学習者が意図をもって端末を使いこなしたり、他者との対話を通じて納得解を導く体験を重ねたりするなど、「深い学び」「協働的な学び」へ導いていきます。

・自己調整型学習の定着

土日等にクラウド型教材を用いて、児童が自分の習熟度や関心に合わせて選べる課題を適宜配信する予定です。また、自学学習など自ら計画・実行する力を養い、週末の学習習慣を形成していければと考えています。

・対話と承認による非認知能力（ウェルビーイング）の育成

振り返りによる自己評価や相互承認の機会を増やし、成長の実感を得られる機会を学級経営で設定していきます。他者と協力して課題を解決する達成感を通じ、自己有用感や前向きな姿勢を育んでいきたいです。2学期から「じぶんみがきシート～かがやきチャレンジ」を実施します。

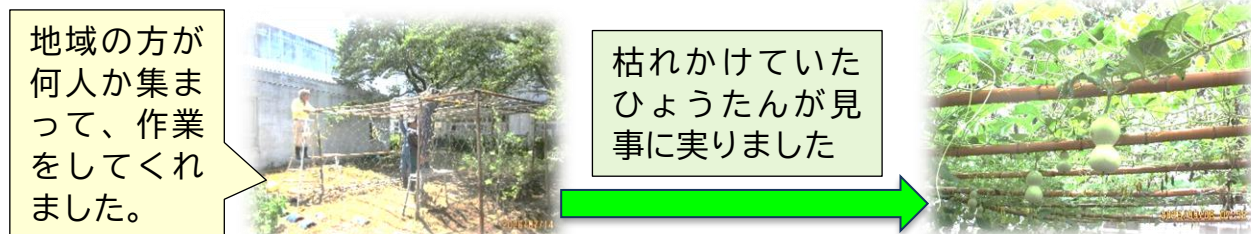
【今、求められる力について（質問紙調査より）】

	児童質問紙	自校	全国
主体的な学び	授業では、課題の解決に向けて、 自分で考え 、自分から取り組んでいた。	75.0	77.6
対話的な学び	学級の 友達との間で話し合う 活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	84.6	85.7
深い学び	授業で学んだことを、 次の学習や実生活に結びつけて 考えたり、生かしたりすることができると思う	75.0	80.8
個別最適な学び	授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	77.0	80.8
協働的な学び	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに 協力しながら課題の解決 に取り組んでいる	84.6	91.4
学びのアウトプット	授業では、各教科で学んだことを生かしながら、 自分の考えをまとめる 活動を行っていた	73.1	73.4

地域とともに育つ子どもたち

～ヒョウタンの植え替えに見る「これからの時代に求められる力」～

4年生が育てていたヒョウタンが、一時期枯れてしまいそうになりました。当番が水をあげたりして、自分たちなりにお世話をしていましたが、どうしても上手くいかず壁にぶつかっていました。そのことを知った地域コーディネーターの方が、農業に詳しい地域の方を学校にお招きくださいました。専門の方に植え替えをしていただいたところ、枯れかけていたヒョウタンは見事に復活し、今では元気に大きく育っています。



この出来事は、これからの予測困難な社会を生きていく私たちにとって、とても大切な「学び」を教えてくださいました。これからの時代に求められるのは、すべてを一人で抱え込む力ではなく、「困ったときに周囲と対話し、多様な人と協力しながら課題を解決していく力」です。

●一人(自分たちだけ)の力には限界があること

どれだけ一人でがんばっても、知識や経験が足りず解決できない問題はあります。困った時には、素直に助けを求めることが大切です。

●他の人と相談し、協同(協力)することの大切さ

自分だけで悩むのではなく、他の人に相談し、知恵を借りて一緒に取り組んだことで、自分たちではできなかったことを成し遂げることができます。これは、今学校教育で重視されている【対話的な学び】や【協働的な学び】の姿そのものです。

学校では今後も、地域の方々の温かい力をお借りしながら、人と繋がり、ともに成長できる教育活動に取り組んでいきたいと考えています。ご家庭でもぜひ、お子様が困ったときに「誰に相談して、どう協力して解決するか」を一緒に考えてみてください。